

(様式第1号)

研究No. (記載不要)	20 ー学長ー 4
-----------------	-----------

## 平成 20 年度配分 研究成果の概要

研究名	「地域におけるサステイナブルデザイン展開の可能性」研究				
配分を受けた特別研究費	特別研究費				1,610 千円
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏名	共同研究の場合の分担
	デザイン学部	空間造形学科	教授	宮川 潤次	共同研究まとめ
共同研究者	デザイン学部	生産造形学科	教授	伊坂 正人	自転車のまちづくりまとめ等
	デザイン学部	生産造形学科	教授	佐井 国夫	研究公開、活動方法研究等
	デザイン学部	生産造形学科	教授	坂本 鐵司	まちづくり提案等
	デザイン学部	生産造形学科	教授	三好 泉	エコデザイン提案等
	デザイン学部	メディア造形学科	教授	羽田 隆志	エコデザイン提案等
	デザイン学部	空間造形学科	教授	古瀬 敏	理論的研究まとめ等
	デザイン学部	空間造形学科	教授	鳥居 厚夫	エコデザイン提案等
発表の方法 (予定で可)	1.本学研究紀要での発表			号数	第 10 号 ( 22 年 3 月発行)
	2 学会等での発表 学会等名:			発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日
	3 その他 発表の方法:			発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日

注:配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)

本研究は、平成 18 年度及び 19 年度「持続的な社会を支えるサステナブルデザインの基礎的研究」の研究成果をふまえ、当地域での持続可能な地域づくりの展開の可能性を示すとともに、環境教育や環境保全活動の核となるべき本学において CO2 排出抑制を進めるための具体的手法を提案することを目的として行われた。

地域への展開では、行政・交通事業者・まちづくり NPO との共同研究により、平成 21 年度の社会実験等の実践的活動の内容を設定することを目標とした。また、本学におけるエコキャンパスへの試行として、学生が主体となった個人や市民グループなどが実行しやすい手法を提案することを目標とした。

(研究の実施方法等)

●「持続可能な地域公共交通のあり方」について、次の調査研究を行った。

①産・官・学・市民協働による共同研究体制の構築

・本学 SD 研究会、浜松市、交通事業者等による「地域公共交通ネットワーク研究会」を正式に設けた。

②交通の現状調査

・第 4 回西遠都市圏日常交通調査(パーソントリップ調査)資料の分析

・国、自治体の自転車関連政策等(堺市、名古屋市等)

③事例研究

・海外、及び国内の自転車のまちづくり、自転車利用推進事例研究

・公共交通との連携性の高い自転車デザイン事例

④浜松市をモデルとした自転車のまちづくり提案

・駅南地区における自転車ルート調査

・自転車利用への意識を高めるための手法の提案 ・自転車利用のルールづくりとマナー

⑤まちづくりフォーラムの開催(H20 年 8 月 23 日開催)

・関連情報の効果的な収集と市民への啓発を目的とした市民フォーラムを開催した。

⑥研究公開と活動発信

・研究の公開性をたかめることと市民啓発を目的として、本学 SD 研究会ホームページに「自転車のまちづくり」関連ページを設け、公開可能な研究成果を随時公開する。

●本学におけるエコキャンパス推進について、次の実践的活動を行った。

・「エコ SUAC2008」

学生が主体となって、「eco-market」、「緑のカーテン」、「放置自転車再生」、「エコバッグワークショップ」、「ゴミ箱調査」、「エコファッション」の啓発活動を行った。

(得られた成果等)

①産・官・学・市民協働による「持続可能な地域公共交通のあり方」提案

・本学 SD 研究会、浜松市、企業、NPO の共同研究により、自転車を切り口とした環境負荷が小さい都市交通ネットワークのあり方を示すとともに、社会実験等への展開が可能な具体的手法を提案した。

・平成 21 年度の実践活動として「ノーカーデーはままつ 2009」の実行を進めることとした。

②「エコ SUAC2008」プロジェクトの実施により、本学の特徴を生かした CO2 排出抑制手法の提案を行った。活動は TV ニュースで取り上げられ、また静岡県ストップ温暖化キャンペーンのエコスクール部門で入賞し、本学における環境教育の可能性を増した。